厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
総括／分担研究報告書（令和 4 年度）

高齢者 IBD 患者データベース（レジストリ）作成

研究分担者　小林拓
北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター　センター長
北里大学医学部消化器内科　准教授

研究要旨：
世界有数の高齢化社会を迎えているなかで、IBD においても高齢患者が増加している。本プロジェクトでは、高齢化社会における IBD 診療の課題を全国規模のレジストリを構築することで明らかにし、高齢者 IBD 患者特有の問題点とその解決策を見出すことを目指す。

共同研究者
藤谷幹浩（旭川医科大学）
竹内健（辻中病院柏の葉）
松岡克善（東邦大学医療センター佐倉病院）
内野基（兵庫医科大学）
新崎信一郎（大阪大学）
東山正明（防衛医科大学）
藤井俊光（東京医科歯科大学）
三好潤（杏林大学）
山崎大（京都大学）
野島正寛（東京大学医科学研究所）

A. 研究目的

我が国は世界有数の高齢化社会を迎えているなかで、若年発症の多い IBD においても高齢患者が増加している。その内訳としては、長期経過による高齢化だけでなく、高齢発症患者の比率も増加しつつある。高齢患者では、併存疾患の存在や、疾患の性質が異なる可能性をも考慮する必要があり。本プロジェクトでは、高齢化社会における IBD 診療の課題を明らかにし、その解決策を見出すことを目的とする。

B. 研究方法

難病プラットフォームを使用し、他のレジストリとの共通部分には IBD としての共通項目を入力し、それに加えて高齢者プロジェクトの固有項目を収集する方式とする。まず高齢患者（協議の末 75 歳をカットオフとして登録することとした）を全国横断的に収集し、その特徴を明らかにする。次いで登録症例について 1 年に 1 回、IBD 関連入院、手術、死亡といったハードアウトカムについては縦断的に追跡することでその経過や予後についても検討する。プロトコル・調査項目について共同研究者間で議論し EDC が完成した。さらにオーラルフレイルの概念についても調査することとなり、EDC を改修中である。

（倫理面への配慮）

難病プラットフォームのデフォルトに従い、書面による同意を取得して登録する。研究は中央一括で京都大学医の倫理委員会にて審査するべく準備中である。

C. 研究結果

現在準備中である。

D. 考察

E. 結論

全国的な大規模レジストリの構築により、今後ますます重要性が増すであろう高齢者 IBD の実態が明らかになることが期待される。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

１. 論文発表

２. 学会発表

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

１．特許取得

無し

２．実用新案登録

無し

２．その他

無し